

ユズエクボ症(仮称)の薬剤防除の検討



写真 ユズエクボ症の病徴

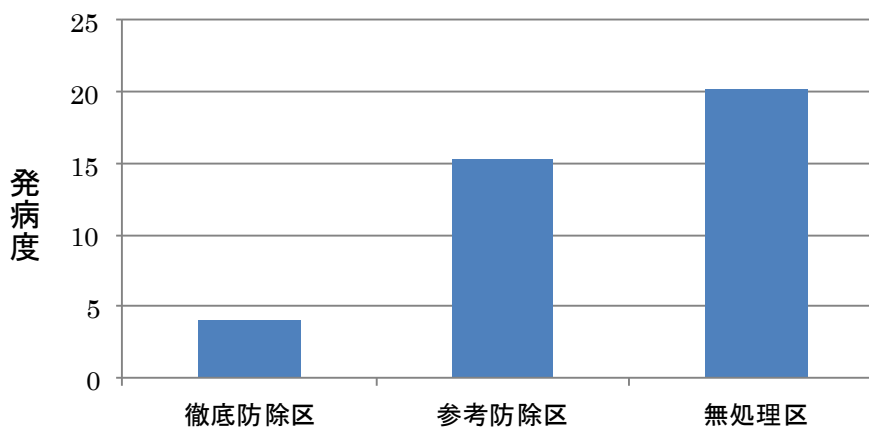


図 各処理区のユズエクボ症の発病度

発病を以下の発病指数別に調査し、発病度を算出した。
発病度= $\sum (\text{発病指数別果数} \times \text{発病指数}) \div (\text{総調査果数} \times 3) \times 100$

発病指数 0: 果皮の陥没症状がみられない
1: 5mm以下の陥没症状がみられる
2: 5mm以上の陥没症状が1～2個みられる
3: 5mm以上の陥没症状が3個以上みられる

高知県の露地ユズ栽培では、果皮が陥没して褐変するエクボ症と呼ばれる障害（写真）が発生しており、品質低下を招くことから大きな問題となっています。本障害は、カビの一種である*Colletotrichum*属菌によって発生する病害である可能性が示されていますが、収穫時には気づかず貯蔵中や出荷後に見つかるため、防除法や防除時期がわかりません。

今回、殺菌剤の散布による防除の可能性を検討するため、7月～10月に果樹試験場で薬剤散布試験を行いました。その結果、使

用回数などの登録内容にかかわらず、期間中継続的に殺菌剤を散布した徹底防除区で、高い防除効果が認められました。しかし、一般的な防除暦を参考に散布した参考防除区では、防除効果がやや低くなりました(図)。

今後は、ユズに対して使用基準を守りながら徹底防除区並の効果が得られる薬剤の種類と散布時期を検討し、実用的で効果的な薬剤防除体系を構築したいと考えています。

(病理担当 沖友香 088-863-4915)